

シティズンシップ教育と歴史学習の可能性

ーブラジル移民の歴史からとらえ直す現代社会ー

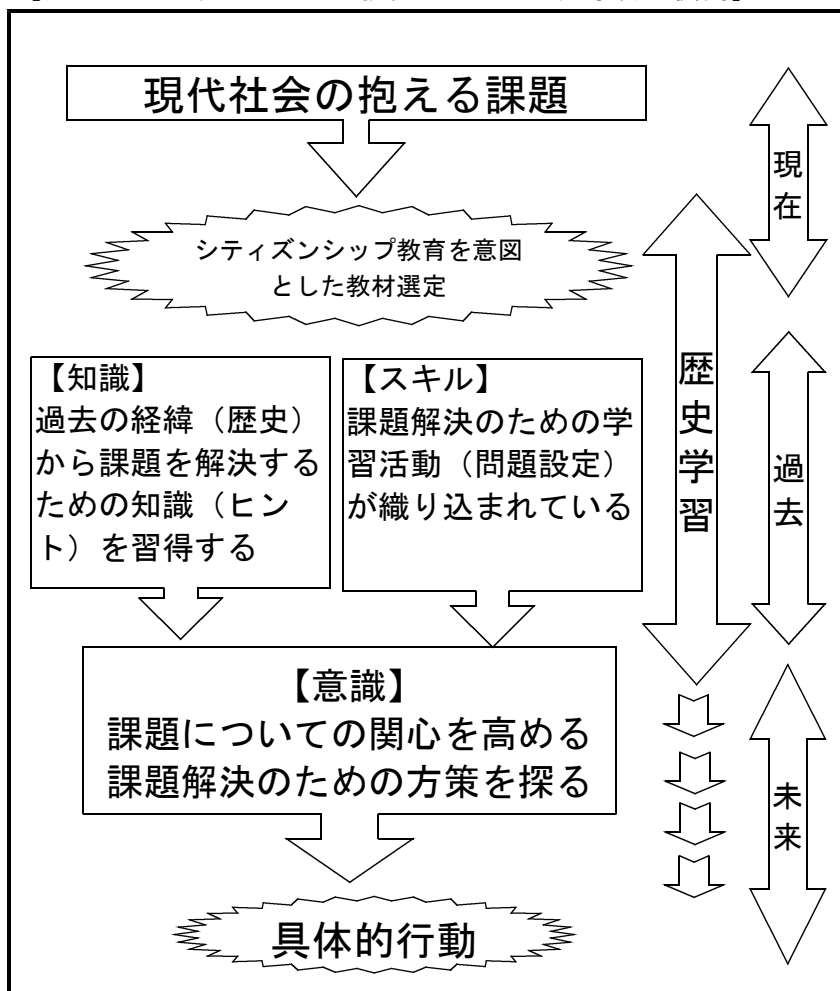
愛知県立一宮高等学校

教諭 堀田 剛史

1 はじめに～シティズンシップと歴史学習～

高等学校の歴史学習の現状は，教師の発言や教科書の記述を唯々諾々と受け入れ，知識獲得（語句の記憶競争）に偏重した感が強い。歴史を単なる「過去の事実」としてのみとらえられた（記憶された）知識は，広がりや継続性に乏しい。現在の歴史学習に，「今（現代日本社会）」との接点を指向する姿勢は希薄である。

【図1 シティズンシップ教育における歴史学習の役割】



めまぐるしく変化する世界情勢の中，シティズンシップ教育とのかかわりにおいて歴史教育が担うべき在り方は何か。それは現代社会の抱える課題と接点を持ち得るテーマを選定し，教材化することである。学習活動の過程において獲得された歴史知識が，生徒にとって「現在につながっているもの」「現状及び未来を考える重要な材料」として位置付けられる「生きた知識」となることが，シティズンシップ教育における歴史学習の重要な役割である（【図1】）。そして，先の観点に基づいてテーマを選び，「意識」「行動」に発展させていく力を育成できるように教材化することが重要である。その場合，学習過程においてどのように知識が獲得されたか，将来の行動につながる課題を設定できたかが鍵になる。

2 研究の方法と目的～近現代史の可能性～

シティズンシップ教育と日本史学習の関連について検討するに当たり，幕末期の開国を境に大きく二つの時代に分けて考えたい。開国以前の前近代においては，「法（ルール・規範）」の獲得・強制の歴史の変遷を概観しつつ，生徒にとって「生きた知識」の獲得と意識・スキルの育成を図ることが可能である。前近代における歴史観には「自己の支配権を強制する（正当化する）側」と，一般民衆

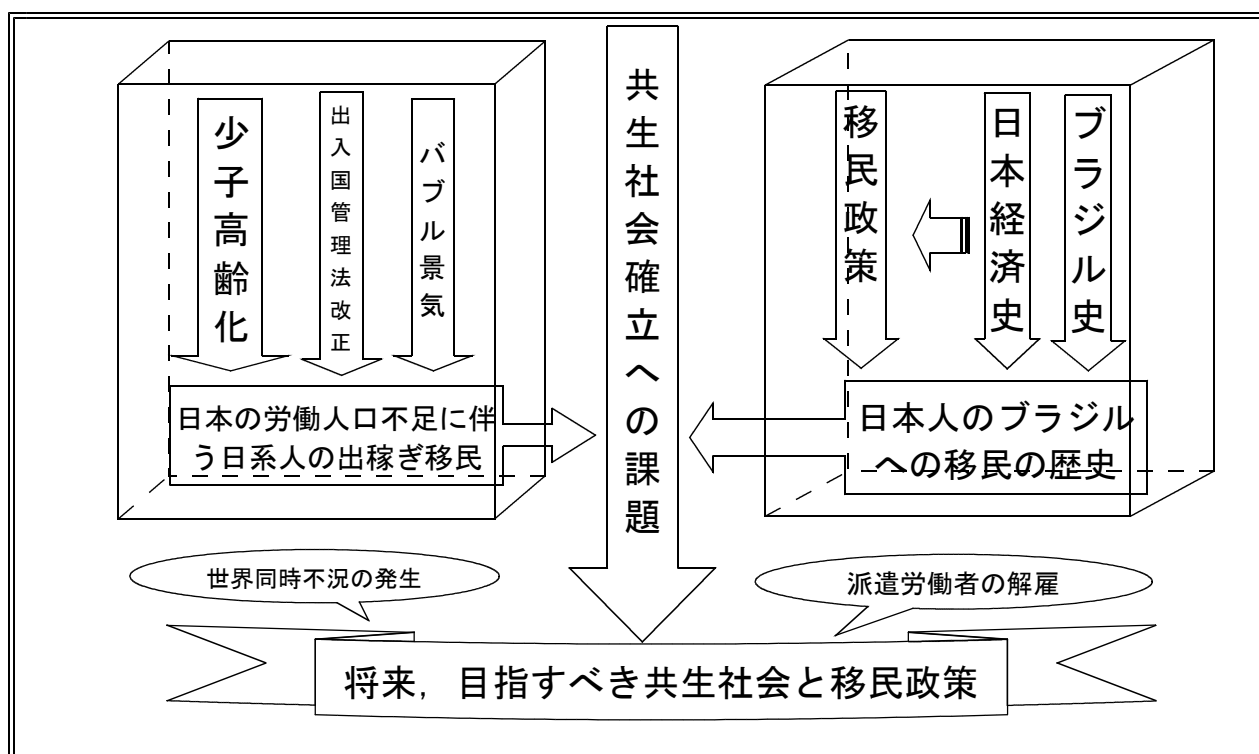
などに代表されるところの「支配される側」といった構図が強く作用する。しかし 10 世紀の尾張国郡司百姓等解文や室町時代における惣掟の成立など、時代が下るにつれて徐々にではあるが歴史観形成の主體的役割を民衆等が果たす側面が垣間見られるようになる。そういった歴史の変遷・変化を通して歴史的視野を広げつつ、シティズンシップ育成の可能性を探ることが可能である。

もう一つは、欧米列強諸国との接触を深める開国以降である。急速に進められた近代国家形成のプロセスにおいて、憲法制定・選挙制度・議会政治・教育制度などシティズンシップと大きくかかわる場面や課題を設定し、公的・社会的な分野での活動に必要な知識の構築及び判断・実行できる資質の育成を図ることが可能である。現代社会との接点・類似点が見いだしやすい開国以降においてこそ、社会システムへの参画についての資質・能力を育成する上で多大な可能性があると考えられる。

以上の観点に基づいて、今回の実践の目的を続く 2 点とする。一つは「授業実践Ⅰ」を通してシティズンシップに関する歴史学習の具体例を示すとともに（現代社会の抱える課題と接点をもちうるテーマを選定し教材化する）、生徒の「意識」変化を検証することで、新たな歴史学習の在り方（「意識」「行動」に発展させていく力を育成するための歴史学習）を探る。第二点として、「授業実践Ⅱ」では生徒のアンケート結果を数値化し、シティズンシップ育成における歴史学習の効用と、歴史意識の重要性について検証することを目指す。

3 授業実践Ⅰ（授業実践とアンケートの実施及び考察）

【図2 我が国の抱える問題と移民政策との関連】



(1) 日系外国人と日本の労働事情

公民科では在住外国人と日本人との多様なトラブルや異文化コミュニケーションなどの問題は、「共生社会の形成」という視点でとらえることが多い。また地理分野では日本の経済動向と労働人口の減少を背景に、世界的な人口移動の視点から考察させる傾向が強い。そこで今回の実践では在住外国人問題の根底に潜む歴史的経緯を取り上げながら、テーマ学習の手法を活用した教材化について取り組

むこととした。また同時に「現在・過去・未来」の時間軸を据えた構成を図りつつ、今日の日系外国人社会に対する理解を深めながら、将来、目指すべき共生社会と移民政策について、生徒自身が考察・立案することを目指す。

1980 年代以降、特に 80 年代末から 90 年代初頭ではバブル経済を背景に日本における外国人登録者数は大きな伸びを示している。また国別にみれば、登録者数の多くを占めた韓国人・朝鮮人が減少傾向なの 비해、中国人・ブラジル人などニューカマーといわれる人々の伸びは著しいものがある。それらの動向の背景には、20 世紀初頭に始まる日本の経済停滞によるところの国外への移民政策の推進や、戦前における日本の大陸進出と植民地政策の影響、80 年代以降のバブル景気に代表される景気動向とそれに伴う労働者政策、また日本の抱える人口動態に関する問題点（高齢化社会の到来と就業者人口の減少）等、多種多様な課題が潜んでいる。

歴史的に日本人の海外移住はハワイ・アメリカ移民に始まり、続くブラジル移民・満蒙移民など、当時の経済状況と密接な関係をもちつつ、世界情勢など多彩な社会的背景の基に展開された。2008 年は日本人のブラジルへの移民 100 周年にあたるが、100 年前のこの地への移住が最近十数年に渡って顕在化した日系外国人住民と日本人住民とのトラブルや問題点の端緒でもある。両者の共生・異文化理解をはじめ、少子化問題、労働人口の減少、高齢化社会の到来など 21 世紀の日本の抱える多様な問題は、これから採るべき移民政策と密接に関連している（【図 2】）。

(2) 単元計画

ア 学習内容 テーマ学習「ブラジル移民の歴史から現代日本を考える」

イ 学習目標 ブラジルへの日本人移民の歴史に関する学習を通して、歴史を「現在につながっているもの」「今を考える重要な材料」ととらえる生徒の視野を育成すると同時に、未来を模索するための指標と位置付けられるようにする。またこれらの歴史知識を「現在及び未来に生かすべきもの」と意識し、「行動」に発展させていく能力を育成する。

ウ 単元計画 第 1 時限 ブラジルについて考える～ブラジル移民の歴史～
第 2 時限 共生社会を目指して～移民政策の策定～

時数	視点と学習内容	ねらい
第 1 時限	現在からの視点：日系ブラジル人と日本社会 提示された新聞記事やデータなど諸資料から（資料①②③として一部提示）、外国人登録者数の増大と多様化、生活習慣の差異に基づくトラブルの頻出、移民者の国別構成及び不況下での失業など日本における日系人社会の実態について知る。中でも昨今急増中の日系ブラジル人に焦点を当てて考察を深める。	テーマ学習の導入部として、日系社会の現実を把握し、ブラジルと日本の歴史的関係を考える端緒とする。
	過去からの視点：ブラジル移民の歴史 プリント学習を通してブラジル移民の歴史を概観しつつ、過去の移民政策の背景に両国経済動向が大きく作用していることを知る。また移民先での苦難と共生の難しさを歴史的事実として認識する。	【知識】【意識】 一連の学習を通して、歴史を「現在につながっているもの」「今を考える重要な材料」ととらえる視野を育成すると同時に、未来を模索するための指標と位置付ける。

(3) 単元の評価計画

ア 第1時限 ブラジルについて考える～ブラジル移民の歴史～

評価の場面	能力	評価の観点	評価規準	評価方法
評価1	【知識】 公的・社会的な 分野での活動に 必要な知識	知識・理解	・ワークシート①の空欄に記入する語句について積極的に考察を行うことができ、該当国として「ブラジル」を書き込むことができる。 ・外国人登録者数に占める日系ブラジル人の多さとその理由について、居住地域・職種などから想定できる。	ワークシート① 定期考査
評価2	【知識】 経済分野での活 動に必要な知識	知識・理解	・既習の知識を背景に、明治期の税制や農民の窮乏、昭和初期の経済混乱に関する空欄補充を行うことができ、移民政策と経済状況とが密接に関連していることが理解できる。 ・日本人移民のブラジル生活での辛苦を現代の共生社会の抱える問題点と重ねて認識できる。	ワークシート② 定期考査
評価3	【意識】 他者との関わり に関する意識	関心・意欲 ・態度	・ブラジルへの日本人移民の苦難について考察し、現代の日系ブラジル人との共生社会の形成や在り方について、強く関心をもつことができる。	ワークシート② 生徒との質疑応 答及び、ワーク シート③

イ 第2時限 共生社会を目指して～移民政策の策定～

評価4	【スキル】 他者と共に社会 の中で、自分の 意見を表明し、 他人の意見を聞 き、意志を決定 し、実行するた めのスキル	思考・判断	・生徒が持参した資料を必要に応じて使用し、グループでの討議を通して積極的に意見の交換を行いつつ、外国人労働者についての多様な考えを知る。 ・先時に学習した移民の歴史的経緯を踏まえた上で、論理性があり実行可能な将来に採るべき移民政策を立案できる。	机間指導と生徒 観察 ワークシート③
-----	--	-------	---	------------------------------

(4) 学習指導（第 1 時限・「ブラジルについて考える～ブラジル移民の歴史～」）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 15分	現代社会の抱える課題 日系ブラジル人移民	・ワークシート①に示された資料に沿って、各設問（Q 1～3）の空欄を埋めていく。	・プレゼンテーションソフトを併用し、資料を提示する（以下も随時使用する）。 ・日系ブラジル人移民の増大の契機に出入国管理法改正（1990）があることを強調し、日系ブラジル人移民と日本の政策・経済動向に密接な関係があることを示唆する。	評価 1
展開 40分	歴史から学ぶブラジル移民史	・ワークシート②（移民史逆年表）を使用し、教師の指示に従って考察や空欄補充を行いつつ、ブラジルと日本の関係（移民の歴史）について学習する。	・以前の歴史学習の復習（明治期の税制や経済動向など）を兼ねながら、考察及び空欄補充をさせる。 ・移民に際して、両国の経済動向（特に 1920 年代の不況）が大きくかかわっている点に留意する。 ・1930 年代～終戦期の移民の苦難の歴史について簡略に触れる。	評価 2
		・ブラジルへの日本人移民の苦難について考察しつつ、現代の日系ブラジル移民との共生の在り方について考える。	・日本が行った植民地政策との比較を行い、「共生社会」確立のための問題点を想起できるように留意する。 ・日本人のブラジル定住に際して何が重要だったかを考察させ、質疑応答を通して生徒の意見を聞く。	評価 3
まとめ 10分	まとめと次時の予告	①既習の学習内容を踏まえつつ、この時間に学習考察した内容についてまとめる。 ②次時の課題として、新聞報道やインターネットなど使用して、日本と在住外国人にかかわる情報を 1 つ持参するよう指示する。		

【ワークシート①】

図 1

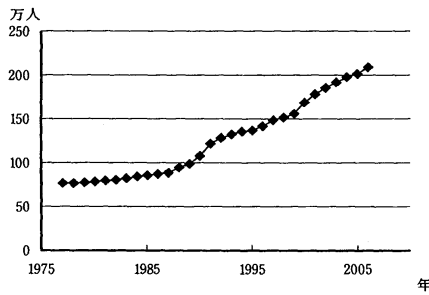


図 1 日本における外国人登録者数の推移

(資料：在留外国人統計)

図 2

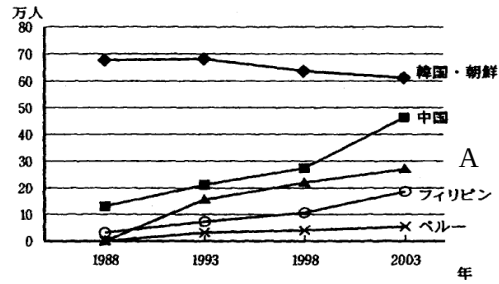


図 2 国籍(出身地)別外国人登録者数の推移

(資料：在留外国人統計)

- Q 1 図 1 では 1980 年代末から 1990 年代初頭にかけて、日本における外国人登録者の急増がみられる。この背景について述べた下記の文章の空欄(あ)～(え)に適する語句を入れてみよう。

当時の日本は（ あ ）景気とも呼ばれる経済膨張が著しい時期で、多くの労働力が必要とされた。これを受けて政府は（ い ）法を 1990 年に改正し、（ う ）人については職種による制限無しに国内で就労できるようにした。また開発途上国の経済発展の指導者育成を目的とした（ え ）制度も労働力を確保できるよう規制を緩和した。

あ（ ）景気
う（ ）人

い（ ）法
え（ ）制度

- Q 2 図 2 において、「韓国・朝鮮」の人達が数多く日本に居住する理由を、日本と韓国・朝鮮との歴史的経緯に基づいて説明してみよう。

- Q 3 ①図 2 中の「A」（折れ線グラフ▲）には、下記の表中の「A」と同じ国名が入る。「Q 1」に示した文章を参考に適する国名を記入しよう。
②下図中のア～ウにはそれぞれ、愛知県・大阪府・東京都の都府県名が入る。愛知県が入るのはどれか。また愛知県における出身国の構成の特色とその要因について「Q 1」に示した文章を参照しつつ、考えてみよう。

都府県	年	外国人登録者総数	出身国			
			韓国・朝鮮	中国	アメリカ	A
ア	1973年	109,166	73,019	13,235	8,980	286
	2006年	364,712	108,052	125,356	17,888	4,608
イ	1973年	55,962	53,739	931	504	30
	2006年	208,514	42,922	35,522	2,272	76,297
ウ	1973年	188,665	179,851	6,099	538	97
	2006年	212,528	140,123	43,498	2,746	4,666

単位：人

在留外国人統計各年版等による

A _____
ア _____
イ _____
ウ _____

- Q 4 現在ブラジルには、全人口の約 1 % 弱にのぼる約 140 万人の日系人が住んでいます。なぜブラジルに多くの日系人が住んでいると思いますか。ポスターを参考に、下記の質問事項①～④を参考にしながら考えてみよう。

- ①いつごろのものか？
②何を持っているか？
③何を呼びかけているのか？
④なぜ南米（ブラジル）なのか？

なぜブラジルに多くの日系人が住んでいるのか？

【ワークシート②：ブラジルと日本】

	ブラジル	日本
現在	日系移民と日本人住民との生活トラブル 日系ブラジル人 日本出稼ぎ者の増加 派遣切り 世界同時不況 1990 出入国管理及び難民認定法の改正 80年～代 ブラジル経済 好況ながらも急速なインフレにさいなまれ、 生計をたてるために海外に出稼ぎ者が激増。 バブル経済 「3k」職場を中心に人手不足となる	
戦後	* 1973 年 最後のブラジル移民船の出港 高度経済成長 1973 石油危機 1951 日本独立 1950 朝鮮戦争 移民のブラジル定住化 * 敗戦後の荒れ果てた日本の様子を知り、戦後ブラジルに定住してゆく決心をした日本人移民は、子供たちの教育に力を入れるようになり、多くの二世・三世が大学に進学し、医者やエンジニアなど高学歴者を輩出。国会議員や市長などという重職に就く日系人もでて、「勤勉で正直」という高い評価をブラジル人から受ける。	
戦中	1945 年 日本の敗戦 ← ブラジルが日本へ宣戦布告 1941 年 日本人移民制裁措置（日本語の使用禁止・一部資産の接収） 1937 年 ブラジルと日本の国交断絶 1937 年 出稼ぎ移民に対する反感から、新たな移民の数を制限する法律と、外国語（日本人にとっては日本語）を教えることを制限する法律ができる。	
昭和	ブラジル移民の奨励 1930 12,985 人 1929 15,098 人 1928 10,252 人 1927 8,072 人 1926 7,832 人 移民の増大 深刻な大不況と失業者の増大 1930 年：() 1929 年： 世界恐慌 1927 年：() 1923 年：() 1920 年：()	
1908	1908 日本人のブラジル移住の開始 1907 アメリカ 日本人移民禁止 明治維新以降の日本（余剰労働力の発生） なぜか コーヒー栽培好景気により コーヒー園での労働者不足 1888 奴隷制の廃止	

(5) 実践結果

2008 年 11 月末に本校 3 年生（普通科・文系）に対して、授業を実践した。プレゼンテーションソフトを併用したこともあり、平常の講義中心の授業とは違い生徒の積極的な姿勢・発言が目立つ授業内容であった。ワークシート①においては、グラフなどの読み取りと日常生活での経験から「ブラジル」を導き出すことは比較的容易であった。ワークシート②においては、年表スタイル（現代からの逆史年表）を採ったため各年代の状況を想起し空欄に語句を入れることも順調に進めることができた。しかし時間的制約もあって十分な議論の場面を設けることができなかったことは、反省すべき事項であった。

以下に第 2 時限に取り扱った「ワークシート③」を示しつつ、質問事項「B 将来、日本が採るべき移民政策について、自己の意見を書きなさい」について生徒の意見の幾つかを示す。

【ワークシート③】 このプリントは授業後に提出してもらいます。

A 現在における共生社会の課題・問題点について自分の意見を書きなさい。

B 将来、日本が採るべき移民政策について、自己の意見を書きなさい。

C 「B」で記した政策を実行するにあたり、①個人のレベルで行えること、②政府・地方公共団体で行えることがあれば、それぞれ記しなさい。

①

②

D 今回の一連の授業（ブラジル移民の歴史と未来の移民政策）についての感想を書きなさい。

【資料 4】 B 将来、日本が採るべき移民政策について、自己の意見を書きなさい。

移民受け入れの前提として労働力の不足があり、移民を受け入れる前に出生率の向上、定年を延長するといった労働力創出を目指す政策がとられるべきである。これらによる労働力の創出が不十分であって初めて移民の受け入れを増やすべきである。その際、外国人の身分に関しては調査が行われ、かつ移住後のアフターケアをしっかりと行い、日本社会になじめるよう政府は努力する必要がある。

B 将来、日本が採るべき移民政策について、自己の意見を書きなさい。

介護など様々な分野での人手不足を補うための海外移民受け入れは、
新たに別の問題を引き起こすことにつながり、あまり良くないと思う。グロ
バル化の時代に移民を制限するのも好ましくないと思うが、この先今のま
ま移民が増え続けていけば、いつかは制限せざるを得なくなってしまう。

B 将来、日本が採るべき移民政策について、自己の意見を書きなさい。

日本の少子高齢化が進む中で、労働力の減少は避けられない。
ゆえに日本社会システムを維持させるためには積極的な移民政策
が必要である。しかし、移民受け入れ対策は現在不十分であるため
日本人と移民の共存が可能な社会システムを構築しなければならぬ。

B 将来、日本が採るべき移民政策について、自己の意見を書きなさい。

私は、移民受け入れの拡大を望むと思う。もちろん受け入れ後に居住者に対する何ら
の対応、例えば「日本語教育」であったり、「文化指導」は必要不可欠だと思う。確かに、
移民の流入における問題は大きい。現在のグローバル社会、日本の労働力不足(?)
を考えると移民受容は必要不可欠な点はない。

概して外国人労働者を積極的に受け入れるべきという肯定意見が多くを占めた。また質問事項「C」においても、グローバル化の潮流を受けて「外国人への偏見をなくし、国際理解に努める」「日本語教育の充実や法的に移民の地位を保障する」「移民に対する教育制度の整備や、経済的助成制度を充実させる」など、日本人の意識改革を訴えるものや、受け入れる側としての日本の制度不備を懸念する声が多かった。残念なのは、現状への批判にとどまり具体的な方策を伴わない抽象的な（稚拙な）政策内容が散見され、一步踏み込んで、どうあるべきか（どうすべきか）という将来を内包した政策としては不十分なものが目立った点である。また「人道的正義感」が漂う文章も多く、より踏み込んだ政策立案までは至らないのが実情であった。授業構成の不備やワークシートの工夫など、教材化に際して多くの改善点を示唆しているように思われる。

4 授業実践Ⅱ（シティズンシップ教育における歴史学習の効用について）

先の「実践Ⅰ」の結果に基づいて、ここ実践Ⅱでは、現代社会の「共生社会の形成」における学習計画に、外国人労働者問題の根底に潜む歴史的経緯についての授業を盛り込むことで、歴史学習の効用と、歴史意識の重要性について検証することを目指す。具体的方法として、公民分野における現代社会「共生社会の形成」の学習計画（本校普通科1年生）に、歴史的要素（ブラジル移民の歴史：私論1での授業案の短縮スタイル）を挿入し、事前・事後の生徒へのアンケート結果から歴史学習の効用（有効性）及び課題を導く。

(1) 授業計画

	学 習 内 容	ねらい
第1時限	少子・高齢化社会をむかえて 「人口構成の変化」「高齢社会の到来」「少子化社会」などの小テーマを通して、現代社会が抱える諸問題に対して、知識を深めつつ考察する。次時の導入として「国際理解アンケート（事前）」を行い、時間内に収集する。	次時（共生社会・国際理解）への導入部として、現代日本が抱える問題点を、生徒に把握させる。また検証のための事前アンケートを行う。
第2時限 （本時）	国際化のなかの人間 ブラジルと日本との移民政策の歴史的経緯を、プレゼンテーションソフトを活用し説明する。前時の授業内容を受けて、外国人労働者・移民問題・派遣労働などの問題点の根底に、歴史的要素が潜んでいることを知り、歴史的視野の重要性を理解できるよう配慮しながら授業進行を図る。まとめとして「国際理解アンケート（事後）」を行い、「事前アンケート」との比較を通して、シティズンシップの育成における歴史学習の効用を検証する。	現代社会の共生社会・国際理解教育において、歴史的要素（ブラジル移民の歴史）を取り入れることで、シティズンシップの育成における歴史学習の効用を検証する。

(2) ねらいと予想

「国際理解アンケート（事前・事後）」の差異から、シティズンシップ意識の育成における歴史学習の効用を検証する（次ページ参照。ページの都合上、抜粋したものを掲載）。今回、両アンケートにおける「Q3」「Q4」「Q7」「Q9」を中心に考察を施す。特に「Q3」「Q7」については、各回答順位についてそれぞれ「1位（3点）」「2位（2点）」「3位（1点）」と得点化し比較・検討する。

異文化理解に必要な知識・情報について、事前アンケート（Q3）と事後アンケート（Q7）の結果を比較した時、事後において歴史的要素の占める割合（点数）拡大すること、さらには、授業感想（Q9）の中で、歴史的視野の重要性について言及したものがみられることを期待したい。

【資料5 国際理解アンケート（事前）】

国際理解アンケート（事前）抜粋

Q 3 国際化が進む中、異文化理解を行う際、必要となる知識・情報は何かと思いますか。以下の項目ア～ソの中から、あなたの考える知識・情報を優先順に3つ選び記入欄に記号を記しなさい。

- ア) 相手国の宗教 イ) 相手国の言語 ウ) 相手国の気候
エ) 相手国の食文化 オ) 相手国の生活習慣 カ) 相手国の政治体制
キ) 相手国のGDP ク) 相手国の教育制度 ケ) 相手国の主要輸出入品
コ) 日本との貿易内容・関係 サ) 相手国の人口・出生率
シ) 日本の歴史 ス) 相手国の歴史 セ) 日本との歴史的関係
ソ) 相手国人の気質（性格的特徴）

1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

Q 4 異文化理解に際して、今、あなたに欠落している知識・情報は何かと思いますか。その
度合いが大きい順に「Q 3」の選択肢から3つ選び記入欄に記号を記しなさい。

1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

【資料6 国際理解アンケート（事後）】

国際理解アンケート（事後）抜粋

Q 7 国際化が進む中、異文化理解を行う際、必要となる知識・情報は何かと思いますか。以下の項目ア～ソの中から、あなたの考える知識・情報を優先順に3つ選び記入欄に記号を記しなさい。

- ア) 相手国の宗教 イ) 相手国の言語 ウ) 相手国の気候
エ) 相手国の食文化 オ) 相手国の生活習慣 カ) 相手国の政治体制
キ) 相手国のGDP ク) 相手国の教育制度 ケ) 相手国の主要輸出入品
コ) 日本との貿易内容・関係 サ) 相手国の人口・出生率
シ) 日本の歴史 ス) 相手国の歴史 セ) 日本との歴史的関係
ソ) 相手国人の気質（性格的特徴）

1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

Q9 今回の授業に対する感想を書きなさい。

--

(3) 評価計画

評価の場面	能力	評価の観点	評価規準	評価方法
評価 1	【知識】 公的・社会的な分野での活動に必要な知識	知識・理解	授業での理解を踏まえ、移民問題に関する他国との歴史的経緯についての知識に定着がみられる。	定期考査
評価 2	【意識】 社会への参画に関する意識	関心・意欲・態度	共生社会・国際理解において、歴史的要素の重要性が理解され、社会に対する視野に広がりをもつことができる。	アンケート

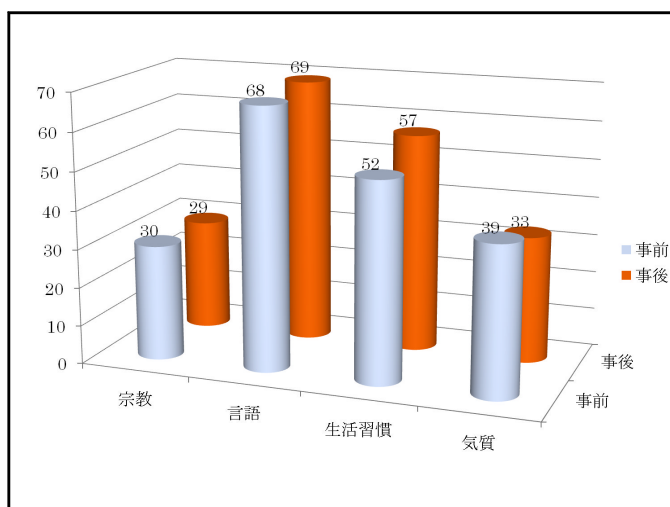
(4) 学習指導 (第2時限・「ブラジルについて考える～ブラジル移民の歴史～」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 15分	日系ブラジル移民	・日本における外国人登録者数の変化と、その国籍について考察する。 ・教師とのやりとりを通して、ブラジルの実情について知る。	・プレゼンテーションソフトを活用し、資料を提示する（以下も随時使用する）。 ・生徒の発言を通して、生徒個人の経験や体験を想起させる。	
展開 35分	ブラジル移民史	・プレゼンテーションソフトを通して、ブラジルと日本の歴史的関係について学習する。	・移民に際して、両国の経済動向が大きくかかわっている点に留意する。 ・歴史的要素に深入りしないよう、留意する。	評価1
まとめ 15分		・日系ブラジル移民の増大の契機に出入国管理法改正（1990）があることを理解し、移民問題の根底に両国の経済動向と歴史的要因が強く作用していたことを知る。	・共生社会を目指した自治体や民間での努力を示すとともに、「派遣切り」や生活トラブル・事件など、多くの課題が横たわっている現実に向けられようにする。	評価2

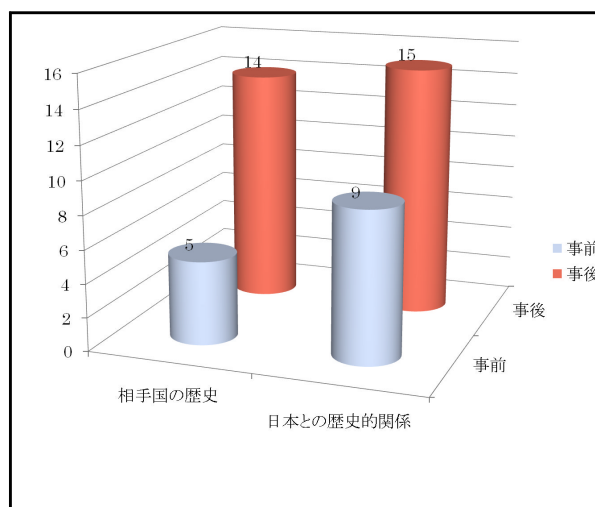
(5) アンケートの考察 【表 1 アンケート集計】

アンケート集計比較	事前 Q 3	事後 Q 7	増減
ア 相手国の宗教	14人(30点)	13人(29点)	▼1点
イ 相手国の言語	25人(68点)	28人(69点)	△1点
ウ 相手国の気候	6人(10点)	3人(3点)	▼7点
エ 相手国の食文化	9人(13点)	10人(19点)	△6点
オ 相手国の生活習慣	25人(52点)	29人(57点)	△5点
カ 相手国の政治体制	3人(4点)	2人(3点)	▼1点
キ 相手国のGDP		1人(1点)	△1点
ク 相手国の教育制度	2人(2点)		▼2点
ケ 相手国の主要輸出入品		2人(4点)	△4点
コ 日本との貿易内容・関係	5人(9点)	3人(3点)	▼6点
サ 相手国の人口・出生率			
シ 日本の歴史			
ス 相手国の歴史	4人(5点)	9人(14点)	△9点
セ 日本との歴史的関係	5人(9点)	7人(15点)	△6点
ソ 相手国人の気質(性格的特徴)	21人(39点)	16人(33点)	▼6点

【グラフ 1 事前・事後の比較①】



【グラフ 2 事前・事後の比較②】



「Q 3」では、予想通り歴史的要因（シ・ス・セ）については、他項目に比して優先順位は決して高いものではなく、三つの合計でも9人（14点）に留まった。それに比して、「イ 相手国の言語」「オ 相手国の生活習慣」は大変高い数値を示した。生徒にとって、両選択肢ともにコミュニケーションをするにあたり必要な知識・情報として想定しやすいものであろう。実際の公民分野の教科書類を眺める限り、歴史的アプローチに言及する部分は皆無である。やはり公民分野では、過去に甦って「現在」を追究することは非常に少ない。

次にQ 3とQ 7との差異について考察する。Q 3で高い数値を示した「イ 相手国の言語」「オ 相手国の生活習慣」などの項目は、上記の「グラフ 1」に示すとおりQ 7においても高い数値を示すものの、大きな変化は見られなかった。それに対して、「ス 相手国の歴史」「セ 日本との歴史的関係」などの歴史的要因が示す数値は、「グラフ 2」が示すように9人（14点）から16人（29点）

に大幅に上昇した。このように現在もしくは未来を考察するために、今につながる「経緯」＝「歴史」を知ること、思いを巡らすことは重要な要素であることは間違いない。事前アンケート「Q4（異文化理解に際して、今、あなたに欠落している知識・情報は何かと思いますか）」では、18 人もの生徒が歴史的知識の必要性を回答していることから、そのことが傍証されよう。

冒頭に述べたように『歴史知識が、「現在につながっているもの」「現状及び未来を考える重要な材料」として位置付けられる「生きた知識」となることが、シティズンシップ教育における歴史学習の重要な役割である』という命題は、今回の試みの中で検証がなされたものとする。そして「歴史知識」の必要性を感じさせることで、生徒の広い視野を形成し、シティズンシップ育成に必要な「意識」を涵養することにつながるはずである。以下に「Q9（今回の授業に対する感想を書きなさい）」についての回答例を示す。実生活の中や新聞テレビなどの報道などにより、多くのブラジル人移民の存在について「知識」として知っているものの、「なぜブラジルからの移民が多いのか」「ブラジルと日本との歴史的関係はあるのか」といった、深く踏み込んで考える姿勢は皆無であったようだ。今回の実践が、歴史的に物事をとらえようとする契機になったと予感させる感想が多く寄せられたことは、大いに評価できるであろう。

【資料7 Q9の回答例】

ブラジル人がなぜ日本に多いのか、その理由を一つ一つ
気づくと考えてみる。日本との関係が、外国に大きな
意味をもつていて、分かった。

現在の日本が作られるまでに、様々な国と関わり合い、今、その時の歴史が
深く関わっているということがわかった。

ブラジルとの関係も、知ることができ、おもしろかった。この
理解を深めることができたし、もと歴史について学ぶ必要がわかった。

今の政治体制と考えると、安易に、外国人との関係を考えていることが
いけないと感じました。自分の国も、母国を大切にしませんが、
共生社会、国際化の中に暮らしているため、慎重に考えていく
ことが大切だと感じました。

師は普段の授業では「受験のため」と緊張状態にあるが、
今回の授業のスクリーンで見て学ぶ「形式めなものない、普段やらないものを
やるとリラックスでき、新鮮さがあり、楽しい」と素直に感じられた。
また、大切なことを学ぶ機会とて思った。

5 課題と展望

今回の研究にあたり、「シティズンシップ教育と歴史学習の可能性」という課題を設定し、2つの実践を行った。

「授業実践Ⅰ」では、在住外国人問題の根底に潜む歴史的経緯を取り上げながら、テーマ学習の手法を活用した教材化について取り組んだ。そして、「現在・過去・未来」の時間軸を据えた構成を図りつつ、今日の日系外国人社会に対する理解を深めながら、将来目指すべき共生社会と移民政策について、生徒自身が考察・立案することを目指した。

また「授業実践Ⅱ」では、現代社会の共生社会の形成における学習計画に外国人労働者問題の根底に潜む歴史的経緯についての授業を盛り込み、事前・事後の生徒へのアンケート結果から歴史学習の効用と歴史意識の重要性について検証した。授業構成や評価の在り方など多くの課題が残るものの、

【資料8 朝日新聞社許諾済み 2009/12/15】

個々の実践の成果は歴史

学習の重要性を十分に示すものであった。

つまりシティズンシップ育成には、「過去」を踏まえ、「今」を直視し「未来」を見通すプロセスが重要であり、歴史学習はこの「過去」を獲得するために不可欠な構成要素であることを、今回の2つの実践を通して示すことができたと考える。

左記の新聞記事は 2009 年 12 月 15 日付の朝日新聞である。この記事に限らず、最近の新聞やテレビ報道では、昨年の秋の世界同時不況以降、派遣切りなど厳しい労働環境に追いやられた日系ブラジル人の多くが、帰国することなく日本に留まり、日本への定住を真剣に模索する動きが報じられることが多い。奇しくも世界同時不況の大波は、日本人と日系人との関係を、一過性のものでない、よ

日系ブラジル人 生活保護急増

自動車関連工場などが集積し、ブラジルの登録者数が全国最多の浜松市では、外国人家庭約1万8千世帯のうち、生活保護受給世帯は昨年8月には84世帯だったのが今年10月には4倍の350世帯に増えた。

浜松市に次いで登録者数が多い愛知県豊橋市では、9月時点で32世帯と5月の3倍に。約3千人のブラジル人が暮らす同県知事市では、10月時点で4月の4倍にあたる80世帯に増えた。

6人に1人が外国人の日本最大のブラジルタウン・大泉町を含む群馬県邑楽郡では、外国人全体で10月現在、30世帯、昨年10月の4倍だ。全国には昨夏時点で南米出身者が10年前の約1.5倍の約39万人住んでいた。厚労省は日本人に3年間の就労目的の再入国禁止と引き換えに航空運賃などを補助する帰国支援制度を進めるが、4月から11月までの申請者は計1万6460人に過ぎない。生活保護の対象は日本国民だが、就労が認められた永住・定住外国人らには厚労省通知により準用される。

子どもには日本が自分の国

「工場の仕事はすぐけになる。技術を身につけて、安定した職に就きたい」

浜松市で暮らすブラジル人のさん(42)は、生活保護を受けながら足裏マッサージを学んでいる。

1992年、日本人の妻と来日。派遣会社に登録し、静岡県内の自動車部品工場で働いた。月の稼ぎは約35万円。次女も生まれた。日本に永住すると決め、2007年に浜松市内に200万円のマンションを購入した。

だが昨年、夫婦とも失業。派遣会社は社長に加入させてくれたために失業手当も受け取らず、月11万円のローンがのしかかった。

今年4月に生活保護を申請した。6月から月約21万円を受けとる。マンションは手放し、家賃4万9千円のフルームのアパートに移った。

「出て行るとき、本当にうかつ。家は日本での成功の象徴だったから」

経済成長しているとはいえない。ブラジルの失業率は約8%、最低賃金月2万5千円。何となく日本に住み続けたいと願うパウロさんが「安定した職」として目標にしているのは、健康ランドや温泉地へ出張する。月6万5千円の講習費をひねり出している。

「子どもたちのことを考えると、日本を離れられない」

と訴えるのは、愛知県豊橋市の奥宮住宅で暮らす日系ブラジル人の男性34だ。今年1月に自動車部品工場で派遣切りになり、失業手当も夏に切れた。9月から月約20万円の生活保護で暮らす。

11年前に来日してから生まれた長男(9)、次男(4)と長女(2)は、日本語とポルトガル語を話す。ブラジルには一度も行ったことがない。

「子どもたちは、日本人の友達も多く、日本が自分の国だ」と思っている。

企業が外国人の採用条件を厳しくしていることも苦痛に拍車をかける。ハローワーク豊橋によると、昨秋までの求人は残業や夜勤ができる単純労働の人材。派遣会社が選別を厳しくしており、日本語が話せなくても働けた。しかし、今は派遣会社の求人が激減し、求められているのは日本語を読み書きもできる人。日本語検定2級を条件にする会社もあるという。

豊橋市多文化共生・国際課のさん(42)は「帰国者は増加傾向にあるが、ブラジルで仕事が見つかる保証もなく、日本に帰る人が多い。生活支援だけでなく、日本語指導など課題は多い」と話す。

愛知県豊橋市役所の生活保護相談窓口。多い日に1日に10人以上訪れるブラジル人らに、同僚の臨時通訳が対応する。岡田亨

り緊密なものにすることとなった。日系人を「一時的な出稼ぎ労働者」としてではなく、まさに「共生すべき隣人」として接する状況が発生したことを物語っている。

今まさに、「過去」を踏まえ「今」を直視し「未来」を見通す能力が必要不可欠な時期となったといえよう。多様かつ複雑な動きを示す現代社会にあって、シティズンシップの育成、ひいては歴史学習の重要性が増していると言わざるを得ないであろう。

【参考文献等】

- 内山勝男 『蒼氓の 92 年 ブラジル移民の記録』 2001 年 東京新聞出版局
- サンパウロ人文科学研究所編 『ブラジル日本移民史年表』 1997 年 無明舎出版
- 藤崎康夫編 『写真・絵画集成 日本人移民 2 ブラジル』 1997 年 日本図書センター
- 藤崎康夫 『母と子でみる ブラジルで 日本人移民物語』 1999 年 草の根出版会
- 富野幹雄・住田育法編 『ブラジル学を学ぶ人のために』 2002 年 世界思想社
- 山田睦男編 『概説ブラジル史』 昭和 61 年 有斐閣選書
- 依光正哲 『日本の移民政策を考える 人口減少社会の課題』 2005 年 明石書店
- 鬼頭宏 『図説 人口で見る日本史』 2007 年 P H P 研究所
- 中日サンデー版 「ブラジル移住 100 年」 2008 年 5 月 11 日
- N H K 番組 「その時、歴史は動いた」
- 移民は共存共栄の事業なり～ブラジル移民 100 年～ (2008 年 6 月 18 日放送)
- 高橋幸春 『日系人の歴史を知ろう』 2008 年 岩波ジュニア新書 岩波書店
- 入国管理局ホームページ <http://www.immi-moj.go.jp/toukei/index.html>
- 国際日経研究プロジェクト http://www.janm.org/projects/inrp/japanese/index_ja.htm
- 外務省 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/chosa_06.html